

2020年度事業計画及び 次期(2020/2022)三カ年計画

2020/3/11

一般財団法人バイオインダストリー協会

I . 次期 (2020/2022) 三力年計画

1. 2017/2019三カ年計画の総括

目標：オープンイノベーション推進、新ビジネス創造

○ オープンイノベーション推進

- ・ BioJapanの成長継続： アジア最大のマッチングイベント
商談件数：7,228 (2016年) → 10,075 (2018年) → 11,987 (2019年)
- ・ アライアンス促進ツールの整備： JBAビジネスダイレクトリー新設、
WEBデータベース「JBAバイオベンチャーダイレクトリー」リニューアル
- ・ 新表彰制度スタート(バイオインダストリー大賞、奨励賞)

○ バイオデジタル融合の推進

- ・ 関連セミナーの集中開催： 9題 / (2014年/2016年) → 42題 / (2017年/2019年9月)
- ・ ワーキンググループ活動：「製造プロセスへのデジタル技術活用について知恵を結集する会」 など

○ 政策提言活動

- ・ 新バイオ戦略の策定に参画 ⇒ 2019年6月「バイオ戦略2019」完成

○ 活動基盤強化

- ・ 会員とのコミュニケーション強化： JBAホームページ改訂
- ・ 業務効率化： 電子化(勤怠管理、名刺管理、会議見直しなど)

○ 収支バランス維持： 正味財産を維持

- ・ 正味財産期末残高：1,373百万円(2016年) ⇒ ⇒ ⇒ 1,433百万円(2019年見込み)

○ 法人会員数目標達成： 344 (2017/3) ⇒ 403 (2020/3)

I. 次期三カ年計画

2. 現状の課題認識

人口

- ・国内人口減少 ⇄ 世界人口増加
- ・国内少子化・高齢化
- ・新興国中間層台頭、低所得層人口爆発と貧困問題

環境・エネルギー

- ・環境問題の深刻化(気候変動等)
- ・エネルギー・食糧・水需要増加・資源枯渇⇒世界的な資源・食糧・水の獲得競争激化
- ・再生可能エネルギー及び分散電源の需要・利用の拡大

都市・インフラ

- ・世界の都市化
- ・新興国でのインフラ需要拡大
- ・先進国はインフラ老朽化、維持更新・予防保全需要増大

テクノロジー

- ・デジタル技術(IoT・AI・ビッグデータ活用)、ロボティクス、バイオテクノロジー、脳科学などの飛躍的发展
- ・ビジネスプラットフォームの急拡大と巨大プラットフォームによるデータの独占
- ・オープンイノベーションの活発化

価値観・ライフスタイル

- ・ライフスタイルの多様化、安全・安心・快適の追求
- ・環境意識の高まり、健康意識の高まり

経済等

- ・国内経済成熟化・縮小(消費市場縮小・産業空洞化等)
- ・新興国経済成長(一部には成長鈍化や中国経済減速)
- ・グローバル化、高齢者市場拡大

社会構造

- ・日本・先進国のダイバーシティ社会化(女性の社会進出・高齢者社会参加・外国人就業者増加)
- ・単独世帯増加(及びそれに伴う食の外部化・個食化)

医薬品業界

- ・薬価制度改革
 - ・膨らむ研究開発費
 - ・高まる新薬創出ハードル
- ⇒ 生き残りをかけた**ビジネスモデル見直し・業界再編**

食品業界

- ・人口減少に伴う国内需要縮小・人手不足
- ⇒ **付加価値向上・海外展開・生産性向上**

化学(素材)業界

- ・価格競争激化
 - ・地球環境問題への対応、規制強化対応は不可避
 - ・SDGs、ESG、バイオエコノミー
 - ・自前主義の限界
- ⇒ **「SDGs」重点対応、開社力**

次期三ヵ年計画で考慮すべきポイント

- 知の融合(バイオーデジタル融合等)と破壊的イノベーションの急激な進行
- 新バイオ戦略
- 持続可能な開発目標： SDGs

3. 2020/2022 三カ年計画 基本戦略

重点目標

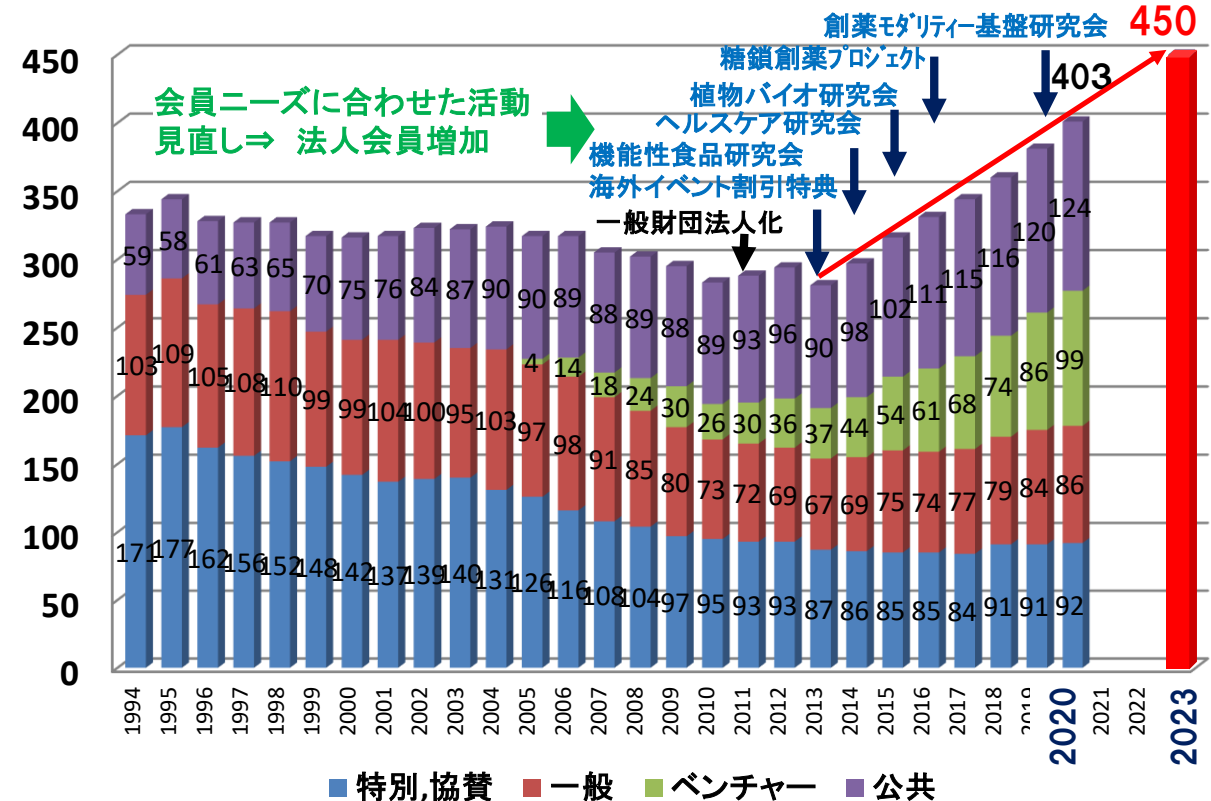
- 新バイオ戦略の推進
- オープンイノベーション促進

活動の評価

- 会員の満足度や業界の期待度が反映される法人会員数で評価
⇒ KPI: 法人会員数 450 (2023/3 時点)

JBA法人会員数の推移

「会員数変動は会員の満足度や業界の期待度を計るバロメーター」



*) この他に個人会員約600名所属

JBA 5Activity : 得意技で勝負！



政策提言、政策対話

先端バイオ情報提供
シーズ発掘・産業化

オープン
イノベーション推進

国際ネットワーク形成
国際的枠組みづくり

バイオインダストリー
発展の基盤整備

重点施策

1. 産官学や異分野とのハブ機能の効果的活用によるオープンイノベーション推進
2. JBAの機能をフル活用したバイオ戦略推進支援
3. 新規ビジネスに繋がる情報の発信と新規事業創出の推進
4. 会員サービスの強化
5. 運営体制の整備・強化

JBA 5 Actions

オープンイノベーション推進

国際ネットワーク形成、国際的枠組み作り

政策提言、政策対話

先端バイオ情報提供・シーズ発掘・産業化

バイオインダストリー発展の基盤整備⁸

JBA組織強化

重点施策1) 産官学や異分野とのハブ機能の効果的活用によるオープンイノベーション推進

最重要活動

(1) オープンイノベーションプラットフォーム「BioJapan」

更なる規模拡大: 世界的バイオイイベントとしての確固たる地位確立

KPI: 参加・パートナー企業数 1,313社(2019) → 1,600社(2022)

商談件数 11,987件(2019) → 15,000件(2022)

- ① JBA諸活動と有機的結合 ② 会員割引の利用拡大
- ③ オープンイノベーションへの貢献の見える化
- ④ バイオ産業の裾野拡大に対応したイベント展開: 「healthTECH JAPAN」の新規開催

(2) ベンチャー支援、ビジネス連携推進



- ① ベンチャー会員へのサービスの増強、 ② ベンチャーダイレクトリーの有効利用
- ③ ビジネスダイレクトリーの充実化、 ④ 成果の見える化

(3) 国際活動、クラスター連携活動

- ① 「国際バイオコミュニティ圏構想」との連動、 ② 国内外イベント参加割引の利用拡大

重点施策2) JBAの機能をフル活用したバイオ戦略推進支援

最重要活動

(1) 産業界の意見・要望のバイオ戦略への打ち込み

KPI: バイオ戦略ロードマップに紐づいたプロジェクト*1・制度改善*2 4件以上／3年

*1) 高機能バイオ素材開発プロジェクトなど

*2) バイオ製品優遇制度、糖質原料価格低減のための制度など

- ① バイオ戦略有識者会議支援
- ② 産官学のハブ機能を活用した関係者間コミュニケーションの深化
- ③ バイオ戦略タスクフォース、市場領域ワーキンググループ等への情報提供・意見提出

(2) 情報収集、提言力の強化

- ① JABEXとJBA研究会との連携強化(機能性食品研究会、ヘルスケア研究会、グリーンバイオイノベーションフォーラム など)
- ② 外部機関との連携強化(調査会社、関連機関など)
- ③ 省庁へのバイオ関連情報提供、政策策定支援

重点施策3) 新規ビジネスに繋がる情報の発信と新規事業創出の推進

最重要活動

(1) 新規活動の展開による顧客満足度の向上

KPI: 満足度カテゴリー5、4(やや満足以上)の割合 80%以上
(セミナー、研究会、イベント参加者など)

- ① 顧客ニーズの把握とそれに応える新規活動の展開
- ② 新規技術・異分野連携推進: 新規企画セミナーの開催、産官学マッチング
機会の創出 など
- ③ 研究開発・国プロ活動の新展開(新規取組み・活性化、創薬モダリティ基盤
研究会活動の推進)
- ④ 研究会・勉強会・国プロ活動の見える化(内部連携、外部アピール)
- ⑤ 会員特典(JBA会員・研究会等メンバー限定)企画の増加

(2) バイオ戦略の推進(世界最先端のバイオエコノミー社会の実現 @2030年)に資する活動の展開

重点施策4) 会員サービスの強化

(1) 広報活動

最重要
活動

- ① JBAの見える化推進: メディアミックスによるタイムリーかつ効果的情報発信
- ② 英語版ホームページの更新
- ③ B&I誌のデジタルBOOK化検討

(2) 人材育成支援

最重要
活動

- ① バイオリーダーズ研修: オープンイノベーションの担い手育成を目指した
若手技術者事業化企画研修
KPI: 修了者 30名/年 × 3年
- ② バイオ入門WEBサイト「みんなのバイオ学園」の運営 等

(3) 表彰制度／バイオインダストリー大賞・奨励賞

- ① JBA奨励賞受賞者企画講演会の継続と充実

重点施策4) 会員サービスの強化

(4) バイオ関連規制活用支援

① バイオ関連規制・制度の紹介: カルタヘナ法説明会、政策情報セミナー等

最重要
活動

② コンシェルジュ機能(個別会員対象): バイオ関連規制・制度対応支援
KPI: 個別相談・ヒアリング 20回/年 × 3年間

↓ 課題の把握

③ バイオ関連規制・制度の改善

(5) 知的財産支援

① 知的財産委員会: 知財関連セミナー(ゲノム編集、合成生物学 など)

(6) 生物遺伝資源の活用支援

最重要
活動

① バイオ関連企業の企業活動と生物多様性との接点に関する企業説明
KPI: 10社/年 x 3年

重点施策5) 運営体制の整備・強化

(1) 組織理念の構築と作業の効率化: 職員の働き甲斐、働き易さの具現化

- ① 行動規範策定、理念浸透に向けた研修、活動
- ② 積極的なIoT投資による業務効率化と働き易さ

(2) 長期人員計画の策定

- ① 中長期の人員の変動に備えた人事計画
- ② 事業継続に必要な戦力としての出向者の確保

最重要活動

(3) 健全な財務基盤構築: 事業継続性の担保

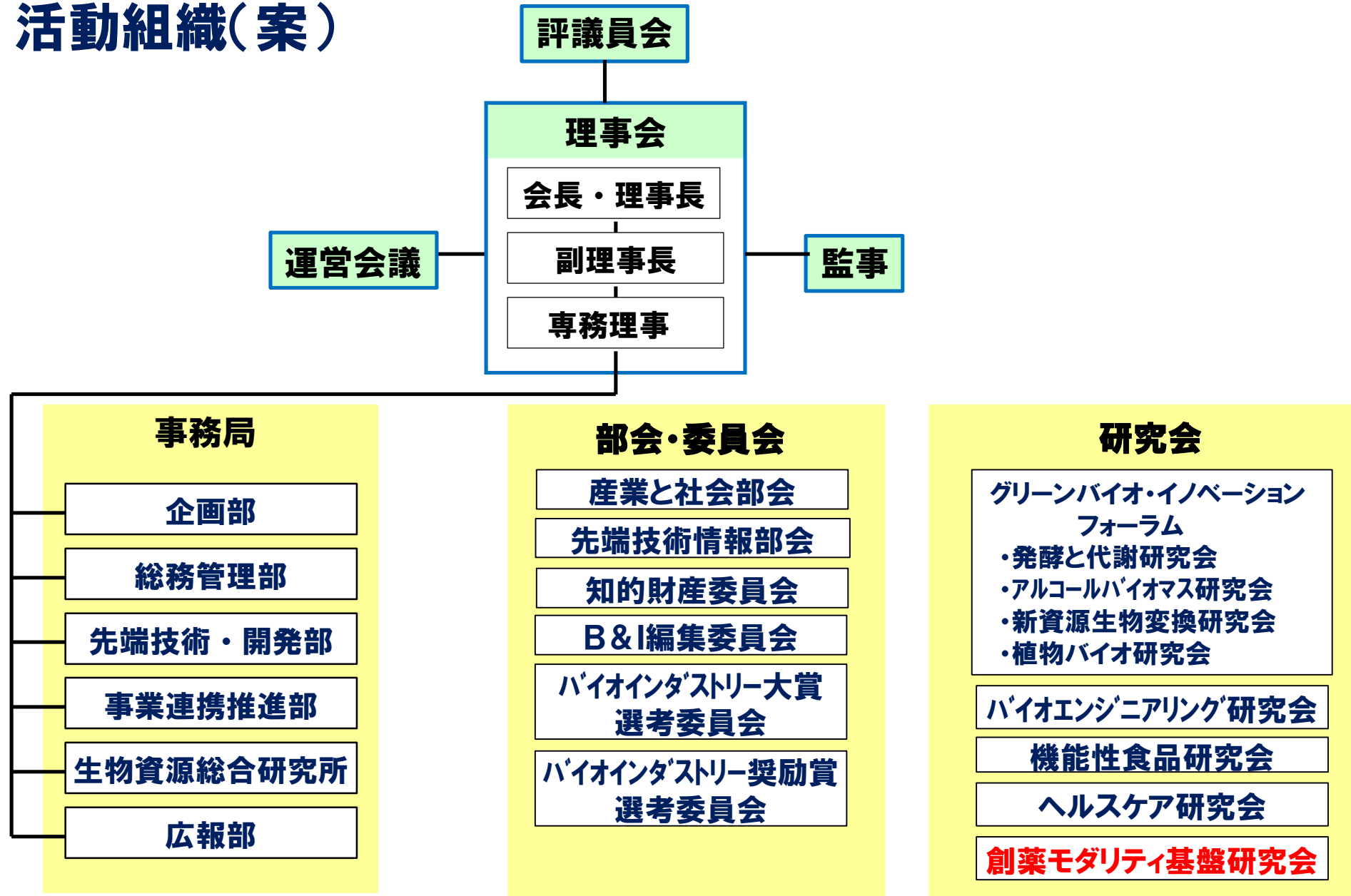
KPI: 正味財産維持*) (2022年度終了時点)

*) 第13回理事会で承認された表彰財源見直し分(化学素材グラント資金)は除く

- ① 新規会員獲得、BioJapan拡大 など
- ② 既存の資産運用の変更・増額による運用益の確保
- ③ 公益目的支出計画の着実な遂行

I. 次期三カ年計画

活動組織(案)



II. 2020年度事業計画

重点施策1) 産官学や異分野とのハブ機能の効果的活用によるオープンイノベーション推進

JBAのオープンイノベーション推進活動

1. ネットワーク形成

- ・バイオビジネス推進協議会*) (年2回)
- ・全国バイオ関係者会議**) (年1回)
- ・国際活動 (イベントでの情報交換等、年5回)

2. バイオベンチャー育成

- ・マッチング支援
- ・バイオベンチャーダイレクトリー
- ・調査分析 (エコシステム調査、ベンチャー現況調査)

3. アライアンス促進

- ・会員ビジネスダイレクトリー
- ・バイオビジネスセミナー
- ・国内外イベントの参加料割引 (約20イベント)

4. オープンイノベーションプラットフォーム



*) バイオビジネス推進協議会 … 8の政府系バイオ支援機関・業界団体および4の関係府省、加えて約20の製薬企業・VC・自治体
**) 全国バイオ関係者会議 … 幹事団体である16の地域産業支援機関、および関係省庁・各地方経済産業局・自治体

重点施策1) 産官学や異分野とのハブ機能の効果的活用によるオープンイノベーション推進

(1) オープンイノベーションプラットフォーム「BioJapan」

KPI: 参加・パートナーング企業数 1,313社 (2019) → 1,400社 (2020)

商談件数 11,987件 (2019) → 13,000件 (2020)

① 新規に「healthTECH JAPAN」を同時開催

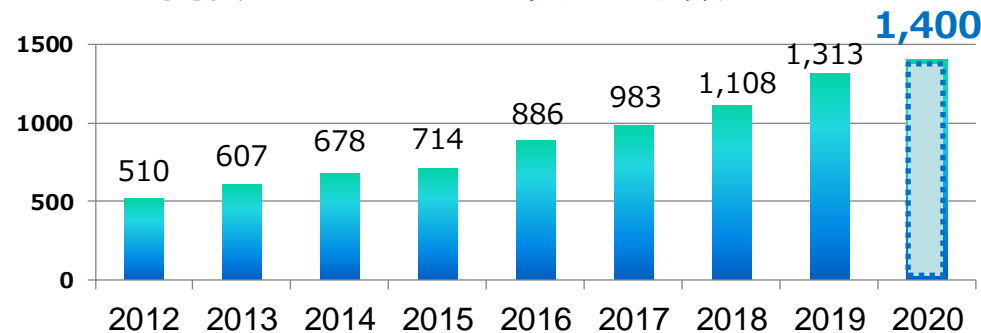
- ヘルスケア産業拡大の機運を受けて新規開催
(これまでのヘルスケアゾーン&デジタルゾーンの発展形)
- 対象とするのは、健康の管理増進・疾病予防・計測・
介護リハビリテーション・機能性食品・デジタルメディスン・
デジタルセラピューティクス等の技術



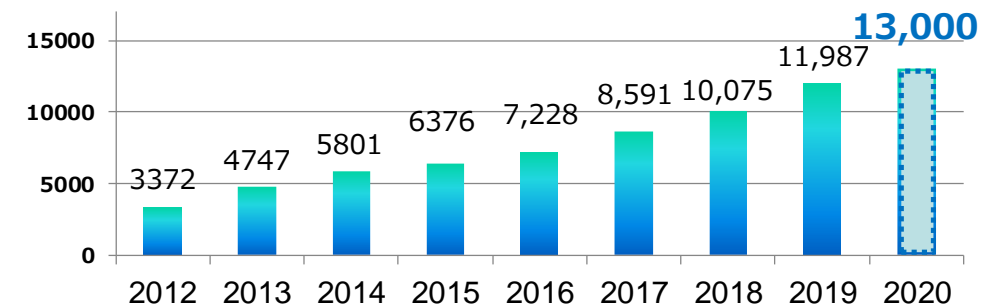
② JBA諸活動との有機的結合

- ヘルスケア研究会、機能性食品研究会 → HealthTECH JAPAN
- GIF → バイオエコノミーゾーン など

■ 出展・パートナーング参加企業数



■ 商談件数



重点施策1) 産官学や異分野とのハブ機能の効果的活用によるオープンイノベーション推進

(2) ベンチャー支援、ビジネス連携推進

① ベンチャー会員へのサービスの増強

- ・ マッチング機会の創出(ビジネスセミナー、パートナーングイベント参加割引等)

② ベンチャーダイレクトリーの有効利用(現在215社)

- ・ 掲載情報の最新化
- ・ 国内外への発信の強化

③ エコシステム形成への継続取り組み

- ・ バイオビジネス推進協議会によるベンチャー支援機関の連携強化
- ・ JBAビジネスダイレクトリーの充実化(掲載案件の増加、フォローアップ強化等)

JBAの法人会員の3種の
ビジネス情報を広く発信

- ◆ B to Bビジネス情報 (8社)
(サービス、製品、等)
- ◆ 事業会社からの公募情報
(研究シーズ公募、等)(10社)
- ◆ 海外機関からの情報 (5機関)
(海外各国の企業、クラスター、等)

情報検索



ビジネス促進・
アライアンス成立!

(3) 国際活動、クラスター連携活動

会員のビジネスに資する国際活動の展開

- ・ 海外視察ミッションの実施
- ・ 国内外イベント参加割引の利用拡大(利用率の拡大等)

重点施策2) JBAの機能をフル活用したバイオ戦略推進支援

(1) 産業界の意見・要望のバイオ戦略への打ち込み

KPI: バイオ戦略ロードマップに紐づいたプロジェクト・制度改善
・プロジェクト・制度改善候補の選出 4件以上

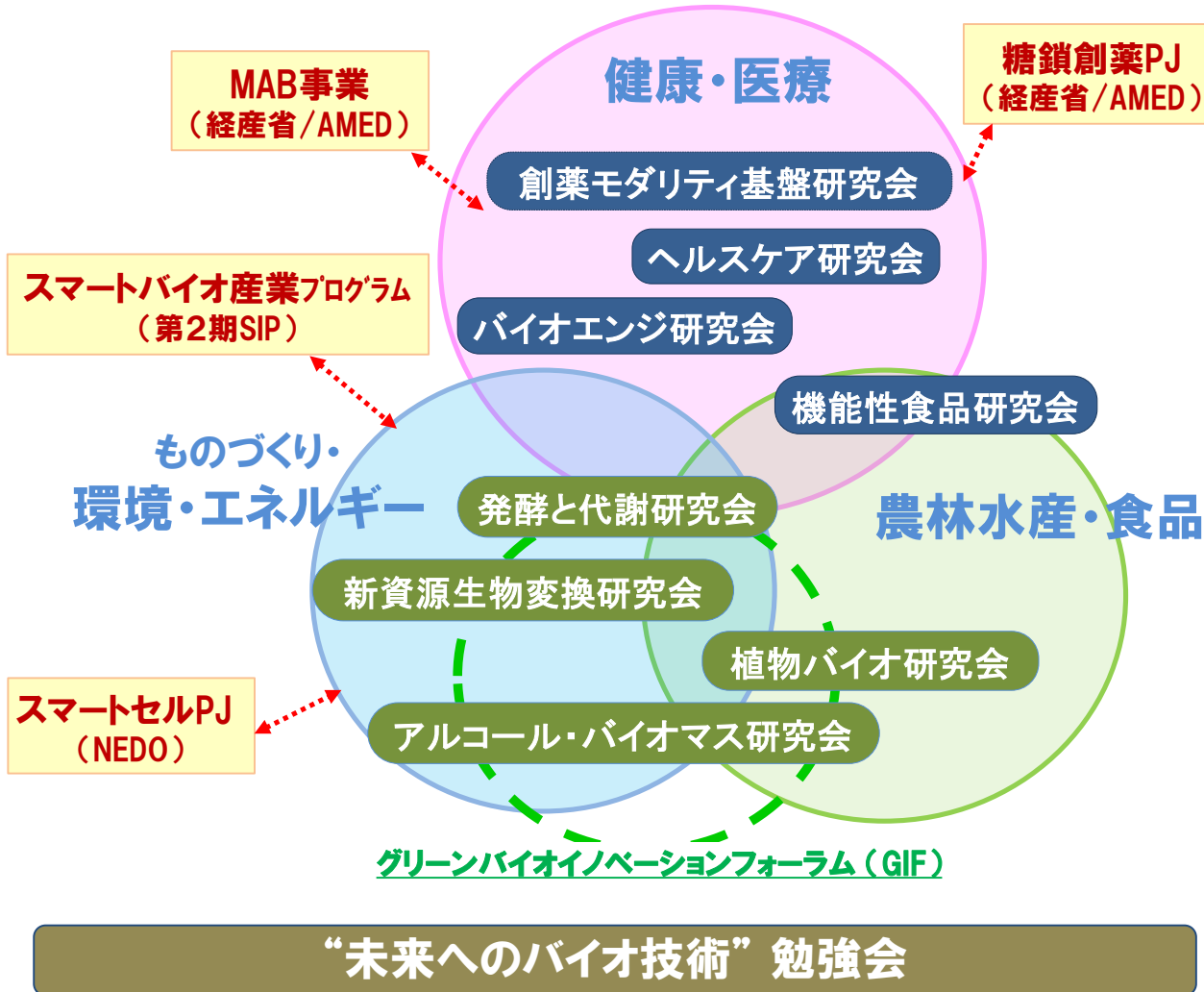
- ① バイオ戦略有識者会議支援
- ② バイオ戦略市場領域に対応するJABEX会合の運営
⇒ バイオ戦略2019ロードマップのフォロー など
- ③ バイオ戦略タスクフォース、市場領域ワーキンググループ等への情報提供・意見提出

(2) 情報収集、提言力の強化

- ① JABEXとJBA研究会、外部機関(調査会社、関連機関など)との連携強化
- ② 省庁へのバイオ関連情報提供、政策策定支援
- ③ 政策情報セミナー開催 (10題/年以上)

重点施策3) 新規ビジネスに繋がる情報の発信と新規事業創出の推進

研究会、セミナー・勉強会、研究開発プロジェクトを通じた情報発信と新規事業創出



□ 研究会・勉強会

- ・ 創薬モダリティ基盤研究会
- ・ バイオエンジニアリング研究会
- ・ ヘルスケア研究会
- ・ 機能性食品研究会
- ・ 発酵と代謝研究会
- ・ アルコール・バイオマス研究会
- ・ 新資源生物変換研究会
- ・ 植物バイオ研究会
- ・ “未来へのバイオ技術”勉強会

グリーンバイオ
イノベーション
フォーラム
(GIF)

□ 研究開発プロジェクト

- ・ 糖鎖利用による革新的創薬技術開発事業(経産省/AMED)
- ・ 次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業(経産省/AMED/MAB)
- ・ スマートバイオ産業・農業基盤技術(SIP)
- ・ スマートセルPJ(植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発)(NEDO)

重点施策3) 新規ビジネスに繋がる情報の発信と新規事業創出の推進

(1) 新規活動の展開による顧客満足度の向上

KPI 満足度カテゴリー5, 4(やや満足以上) の割合 80% 以上

＊セミナー・研究会イベント参加者に対するアンケート結果から集計

(1:不満、2:やや不満、3:どちらでもない、4:やや満足、5:満足)

- ① 社会・産業課題・顧客ニーズの把握とそれに応える新規活動の展開
- ② 研究会活動の新展開(新規企画・枠組みによる活性化、創薬モダリティ基盤研究会の推進)
- ③ 異分野連携・融合を促進するセミナー等の企画、マッチング機会の創出
- ④ 研究会・勉強会・国プロ活動の見える化(内部連携、外部発信)
- ⑤ JBA・研究会会員サービスの向上(会員限定企画の充実)

(2) バイオ戦略の推進に資する活動の展開

- ① JABEXとの連携による情報・意見の発信
- ② バイオ戦略と連動した研究会・勉強会活動の展開

重点施策3) 新規ビジネスに繋がる情報の発信と新規事業創出の推進

【トピックス】

創薬モダリティ基盤研究会設立と方向性

・2019年度の成果

- ・キックオフミーティング開催(11/27) 172名参加
- ・参加者からの課題・要望等アンケート実施と整理
- ・第2回研究会(2020/1/15)方向性確認
- ・第3回研究会(2020/3/2予定)

・3カ年の方針(案)

- ・情報共有(セミナー・講演会の開催)
- ・優先度の高い課題の解決に向けたロードマップ作成
- ・規制緩和・政策提言にむけたWG活動 当該担当者協議 ホワイトペーパー作成
- ・優先度の高い技術開発に向けた調査と国PJ立ち上げ



木村副会長
タカラバイオ(株)
取締役

久保庭会長
中外製薬(株)
顧問

和田副会長
東京理科大学
教授

重点施策4) 会員サービスの強化

(1) 広報活動

① JBAの見える化推進：メディアミックスによるタイムリーかつ効果的情報発信

- ・ 媒体の使い分けによる効果的な情報発信

ホームページ⇒ 速報性重視（e.g. 国内外の要人とJBA幹部の面談等）

B&I誌⇒ 詳細情報提供（e.g. 海外調査報告等）

② 英語版ホームページの更新

(2) 人材育成支援

① バイオリーダーズ研修：KPI: 修了者 30名/年

- ・ 2020年7月16日（木）～ 7月18日（土）@セミナーハウスクロスウェーブ幕張（千葉）

② バイオ入門WEBサイト「みんなのバイオ学園」の運営

- ・ システム変更対応等（Flashサービス停止対応等）

重点施策4) 会員サービスの強化

(3) 表彰制度／バイオインダストリー大賞・奨励賞

① 第4回バイオインダストリー大賞・奨励賞の運営

- ・ 応募受付期間：2020年1/16 ～ 4/20

② JBA奨励賞受賞者企画講演会の継続と充実（KPI: 年1回以上）

- ・ 2020年は高山和雄氏(阪大、第2回受賞)、香月康宏氏(鳥大、第3回受賞)の合同企画を予定。

③ 効果的運営方法の検討

- ・ システム導入による応募受付・審査業務の効率化 等

重点施策4) 会員サービスの強化

(4) バイオ関連規制活用支援

① バイオ関連規制・制度の紹介

- ・ カルタヘナ法説明会: 2回開催 (東京 & 大阪)
- ・ 政策情報セミナー: 重点テーマ「バイオエコノミー」「バイオ戦略」
10題/年開催予定(JABEXと共催)

② コンシェルジュ機能(個別会員対象)

- ・ バイオ関連規制・制度対応支援: KPI 個別相談・ヒアリング 20回/年

③ バイオ関連規制・制度の改善: 大臣確認申請の簡略化等

(5) 知的財産支援

① 知的財産委員会

- ・ 知財関連セミナー: 6回/年、バイオ関連産業の動向等

重点施策4) 会員サービスの強化

(6) 生物遺伝資源の活用支援

① バイオ関連企業の企業活動と生物多様性との接点に関する企業説明

KPI: 10社/年

② 生物多様性に係る国際交渉の支援

「遺伝資源へのアクセスと利益配分」(ABS)関連の国際会議等の際し、交渉の情勢や国内産業界に与える影響等を分析し政府に助言する等、我が国の国際交渉を支援する。特に次年度は、「デジタル配列情報」(DSI)に関する交渉の動向に留意する。

- ・ 5月: 科学技術助言補助機関第24回会合(カナダ/モントリオール)
- ・ 7月: ポスト2020生物多様性国際枠組公開作業部会第3会合(コロンビア/カリ)
- ・ 10月: 生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)等(中国/昆明)

③ 遺伝資源に円滑にアクセス・利用できる環境の整備

海外動向調査・分析、相談窓口開設、セミナー開催、ウェブによる情報提供

重点施策5) 運営体制の整備・強化

(1) 組織理念の構築と作業の効率化: 職員の働き甲斐、働き易さの具現化

- ① 行動規範策定、理念浸透に向けた活動
- ② 業務効率化と働き易さの実現: IOT化推進案件の検討

(2) 長期人員計画の策定

- ① 中長期の人員の変動に備えた人事計画の検討
- ② 事業継続に必要な戦力としての出向者の確保

(3) 健全な財務基盤構築: 事業継続性の担保

KPI 正味財産維持(2022年度終了時点)

*) 第13回理事会で承認された表彰財源見直し分(化学素材グラント資金)は除く

- ① 新規会員獲得、BioJapan拡大 など
- ② 既存の資産運用の変更・増額による運用益の確保
- ③ 公益目的支出計画の着実な遂行